

卓 話

平成 19 年 11 月 13 日

『ロータリー財団について』

2007～2008 年度第 2630 地区
ロータリー財団補助金委員長 篠田 徹様

本日はロータリー財団月間の卓話にお招き頂きましてありがとうございます。ロータリー財団の歴史、活動状況、地区財団活動等のお話をさせていただきます。ロータリー財団の歴史 1917 年、アトランタ国際大会で当時の 6 代目 RI 会長、アーチ・クランフが「ロータリーで基金をつくり、全世界的規模で慈善、教育、その他、社会的に何か良いことをしよう」と提案。その大会でカンザス・シティ RC からクランフ会長に贈られた 26.5 ドルが記念すべき基金最初の寄付になりました。1928 年にロータリー財団と改称され国際ロータリー内で別個の存在になり、1947 年、ポール・ハリスの死去で財団がポール・ハリス基金を設け寄付願いをしたところ 130 万ドルが寄せられ、これが財団の転換期となり、最初のプログラムは現在の国際親善奨学生にあたる高等研究奨学金が実現しました。1957 年、ポール・ハリス・フェロー認証が始まり昨年度 100 万人目の PHF が誕生しています。1983 年 3H プログラムが活動に加わり、それまでは個人への奉仕が中心でしたが社会へも目が向けられるようになり、世界平和フェローシップ、地区補助金、ボランティア奉仕活動補助金等がスタート、財団プログラムも、貧困追放、環境保全、食糧確保、保健衛生、教育促進、調停と紛争解決、世界平和と理解を目指し活動を続け、奉仕の規模も大きくなってきました。現在の 3 大プログラムは人道的プログラム、教育的プログラム、ポリオ・プラス・プログラムです。一昨年、マッチング・グラント（2 カ国以上の RC が関与する国際奉仕プロジェクトへの組み合わせ資金付与）で問題がありましたが、これは、財団が拠出した補助金について補助金を受けたクラブは、使途など前後、中間の報告が必要なにもかかわらず、多くの事業でなされていないということが問題でした。



さて、地区の財団活動についてお話しすると、皆様の寄付は年次寄付の 50%が 2 年間運用され運用利益も含め、3 年後、地区財団活動資金（DDF）として地区へ戻ってきます。これが地区のロータリー財団国際親善奨学生や財団補助金として使われます。ロータリー財団の卓話ですと、本来ならお金を集める話ばかりですが、私が担当しています財団補助金委員会はお金を使ってくださいという委員会です。残念ながら地区財団活動資金の 70%程しか使われていません。特に岐阜地区の地区補助金申請があまり有りません。是非、貴クラブも補助金の活用をお勧めします。かなり使い勝手の良い活動ができると思います。どうぞ活用ください。今後とも、R 財団のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。